

専門部会での意見に対する対応状況

平成25年2月13日

国土交通省 北陸地方整備局

専門部会(下流部会:平成24年8月20日 上流部会:平成24年9月10日)開催後に、部会での意見を整備計画(原案)に反映しました。

■ 上流部会での意見に対する対応

- 陸封型イトヨ等の文章はよいが、オオバヤナギをみていると生物の基本を支える部分のダイナミックさが無くなっている。躍動するような阿賀川づくりのように、動きのあるような文章で表現してほしい

- 以下の文章を追加しました(赤字)。

【原案 P146】

阿賀川は、元来、出水等によりみお筋が移動し、河道内の樹木や草本類が適度に攪乱されることで広い礫河原を再生するなど、川自身が河道内の環境を変化させるダイナミズムを有しており、それが阿賀川らしい特徴的な自然環境を創出しています。

例えば、陸域の礫河原では、カワラヨモギなどの適度な攪乱により維持される河原環境に依存する植物の生息環境となり、水域の浮石が多い瀬はカジカ等の生息場や産卵場となり、淵は、ウケクチウグイの重要な生息環境となっています。また、礫河原に網目状に広がった流路や樹林内の細流により随所で湧水が発生し、陸封型イトヨの生息場を提供するとともに、魚類の格好の避難場となっています。

- 望ましい阿賀川の姿を目指して順応的管理と書かれているが、言葉は難しいのではないかと考えている

- 以下の注釈を追加しました。

【原案 P146】

※順応的管理手法とは、計画時の未来予測の不確実性を考慮し、継続的なモニタリング評価と検証によって、随時計画の見直しや修正を行いながら管理していく手法。

専門部会での意見に対する対応状況

■ 下流部会での意見に対する対応

- 正常流量などの専門用語は、一般の人にはわかりにくいのではないか

- 以下の注釈を追加しました。

【原案 P139】

※流水の正常な機能を維持するため必要な流量：本来河川が持っている機能（舟運、漁業、観光、塩害防止、河口閉塞の防止、河川管理施設の保護、地下水の維持、動植物の保護、流水の清潔の保持、既得用水等の安定取水）を正常に維持するために必要な流量のこと。

- 多自然川づくりは、本来の川の姿を取り戻すためにワンドを人工的に整備するというよりも、越流はさせずに、川の営力を利用しワンドを再生するなど、川の営力でできること、川のスケールを考慮した管理を考えていくべきではないか

- 以下のように加筆しました（赤字）。

【原案 P148】

かつて雄大に広がっていた阿賀野川らしい砂礫河原や瀬と淵が交互に連なる河床形態、ワンド等の湿地やヨシ原等の水際湿地、これらの環境に依存する生物の生息・生育環境の保全・再生を目指し、**河川区分毎に目標像を設定し**、検討を進めていきます。

現存する良好な生息・生育環境については、順応的な管理により保全に努め、消失・劣化した生息・生育環境については、**自然の営力を活かしつつ**、治水対策や維持管理対策と一体となって再生に努めます。

※別途作成中である阿賀野川自然再生計画書(原案)の河川区分毎の目標像、対応を整備計画(原案)にも記載

- 国、県、市が連携して資料館の整備を検討していくことを記述してはどうか

- 以下の項目を追加しました。

【原案 P174】

河川に関する歴史・文化の伝承

河川に関する情報を、パンフレットやインターネットホームページ等により提供するとともに、地域のニーズの把握に向けた住民参加の各種懇談会を開催するなど、常に双方向の情報交換に努め、川と人々とのつながりや流域連携の促進及び支援、河川愛護意識の定着と高揚、住民参加による河川管理を推進していきます。

また、河川に関する水害等の情報を収集するとともに、関係機関と連携を図りながら既存施設などを活用して蓄積された情報の整理・発信を行い、河川に関する歴史、文化の伝承に努めます。